
ロールシャッハテスト

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロールシャッハテスト

【Nコード】

N0392G

【作者名】

柊鏡

【あらすじ】

「墨ですね」と私は医者に対して言った。

「墨ですね」と私は言った。

私の眼前に座る精神分析医は顔を顰めた。

「だからですね、このインクの染みが何に見えるかと訊いているんです」

「私もさっきから言っているじゃありませんか。墨ですね」

「解らない人ですねえ……。これは投影法と云って、心理を読み解くものなんですよ」

「あなたこそ、解らない人ですね。インクはインクです。墨です」
ロールシャッハテストと云うのは、インクの染みが何に見えるかを訊ねる心理学のテストの一つである。

しかし、私には墨は墨であつた。

墨が墨以外の何に見えるのかと。

「あなたには見えないんですか？　これが蝶とか人間とかに」

「あの、一ついいですかね？」と私は医者に言った。「あなたには何に見えるんですかね？　墨以外の何に見えるんですかね？」

医者は大きく溜息を吐いた。「もういい」

私は食い下がった。

「何がもういいんですか？　そもそもですね、幽霊の正体見たり枯れ尾花と云うではありませんか？　木造家屋の木目が人間に見えるとか、馬鹿じゃないですか。心靈写真をあなたは信じるんですか？　あんな目の錯覚じゃないですか？　このテストは視覚の検査なんですか？　そんなんですか？　それとも妄想の検査ですか？　だったら、私は正常です。正常ですから、枯れ尾花が幽霊に見えたりはしません。そうでしょう？」

「あああッ！」医者が怒声をあげた。彼はカルテにこう書いた。
『精神異常者』

私は彼の判定に納得がいかなかったが黙っておいた。

その方が私には色々都合がよかったのである。

何週間かして、私は法廷に立っていた。

目の前でしかつめらしい顔をした裁判官が告げた。「被告は精神鑑定の結果により」

こうして私は無罪になった。

全く簡単なものである。

何処ぞの少年犯罪者のように『ドラえもんに命令された』なんて言う必要はないのだ。

正直が通じない世の中で、道理を通すことが異常なんである。

やはり、私は《異常者》かもしれなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0392g/>

ロールシャッハテスト

2010年10月23日14時21分発行